



院内感染対策ニュース

平成29年8月16日 第48号
院内感染対策委員会

マダニによる感染症を知っていますか？

先日、ニュースで取り上げられていたマダニによる感染症の死亡例をご存知ですか？マダニによる感染症はいくつかありますが、北海道内で死亡事例が報告されました。夏場はマダニに咬まれて受診する患者も増えてきます。気温が上昇するため軽装になりマダニに咬まれやすくなります。今回はマダニについて取り上げます。

* 北海道で発症し死亡した事例：70代の男性がダニ媒介脳炎で死亡。検査の結果、ダニ媒介脳炎の抗体価が上昇を確認したため、さらに詳細に検査したところ陽性と判明した。

ダニ媒介感染症とは



ダニ媒介感染症とは、病原体を保有するダニに咬まれることによって起こる感染症。人が野外作業や農作業、レジャー等でこれらのダニの生息場所に立ち入るとダニに咬まれることがある。ダニがウイルスや細菌などを保有している場合、咬まれた人が病気を発症することがある。

主なダニ媒介感染症の種類



クリミア・コンゴ出血熱
回帰熱
重症熱性血小板減少症候群（SFTS）
ダニ媒介脳炎
ツツガムシ病
日本紅斑熱

	ダニ媒介脳炎	重症熱性血小板減少症候群（SFTS）
発生地域	中央ヨーロッパ、東ヨーロッパ、日本	中国、韓国（朝鮮半島）、日本
感染経路	主にウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染	
潜伏期間	7～14日	6～14日
主な症状	中央ヨーロッパ型脳炎では、発熱、筋肉痛などのインフルエンザ様症状が出現し、2～4日間持続。そのうちの約3分の1は、髄膜脳炎に進展し痙攣（けいれん）、眩暈（めまい）、知覚異常などが出現。 ロシア春夏脳炎では、高度の頭痛、発熱、悪心などの後、髄膜脳炎に進展。発症した場合の致死率は、中央ヨーロッパ型脳炎では1～2%、ロシア春夏脳炎は20%といわれている。回復しても数割の方で神経学的後遺症がみられる。	発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が中心。時に頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、リンパ節腫脹、呼吸不全症状、出血症状（歯肉出血、紫斑、下血）が出現し、死亡することもある。致死率10～30%。
予防策	マダニに咬まれないように予防することが大切。マダニは春から秋にかけて活動が活発になる。草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボン（シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる、または登山用スパッツを着用する）、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくすることが大事。	

マダニに咬まれたら

マダニは人や皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から時に10日間以上）吸血しますが、咬まれたことに気がつかない場合も多いと言われています。吸血中のマダニに気が付いた際、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりする恐れがあるので、医療機関（皮膚科など）に受診してください。また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状がある場合は医療機関で診察を受けましょう。



暑いと露出が多くなりダニに咬まれやすくなります。山や草むらに入る時はしっかりガードを！



ダニよけスプレーも補助的な効果があるようです。

保健所への報告

ダニ媒介感染症は保健所への届出が必要な疾患があります。ダニ媒介脳炎・SFTSは4類感染症として診断確定後直ちに保健所への届出が必要です。

次回もタイムリーな話題をお届けします。ぜひ読んで下さいね！

よろしく
お願いします